

日本学術会議 経済学委員会・環境学委員会合同

フューチャー・デザイン分科会（第26期・第2回）議事録

1. 日時： 2024年11月22日（金）10:00-12:00
2. 会場： オンライン会議（ZOOM）
3. 議題：
 - 1) 前回議事要旨の確認
 - 2) 田崎智宏先生（国立環境研究所）、一原雅子先生（京都大学大学院法学研究科附属法政策共同研究センター）による国連「未来サミット」のご報告
 - 3) 意見交換会
 - 4) その他

出席者：大垣 昌夫、馬奈木 俊介、鈴木 朋子、浅利 美鈴、井伊 雅子、岩佐 和道、宇佐美 誠、江守 正多、上條 良夫、栗山 浩一、香坂 玲、○西條 辰義、齊藤 誠、辻佳子、土居 丈朗、西村 直子、平澤 毅、松島 斉（委員：18名）（○：議事録作成）
招へい報告者：田崎智宏氏、一原雅子氏
欠席者：澤田康幸、阿尻雅文、恵谷浩子、中川善典、宮越龍義（5名）

議事要旨

今回は、9月に開催されたフューチャー・サミットについて、田崎智宏さん（国立環境研究所）と一原雅子さん（京都大学）にご報告をお願いした。

まず、田崎さんが「解説と論考：「未来サミット」に至る経緯と「未来のための協定」と「将来世代に関する宣言」の特徴」についてお話し、次に、一原さんが「UN Summit of the Future & Action Days 参加報告」というお話をなされた。

報告のメモ

・5章から成る「未来のための協定」がメインで、附属書で「グローバル・デジタル・コンパクト」、「将来世代に関する宣言」があり、どうも「将来世代に関する宣言」がメインという印象。オランダとジャマイカが幹事国になって舵取りをしたはずだが、どうも、ウェールズの「将来世代のしあわせ法 2015」のコミッションズオフィスとイギリスの School of

International Futures (SOIF)などが主導権を握り、そこでの議論が反映されたのではないのかという印象。

・ **Anticipatory, forward-looking, future-oriented, future-ready** などという言葉が第二次草案にあったことについて、UNESCO や OECD のインプットがあったのではないのかという質問があったが、これはよくわからないとのこと。

・ **Implmentation** が薄いようなので、今後どう進展するのかという問いに対し、将来考慮に関する意識啓発、将来に与える影響の理解促進とそのため科学的な方法論、個人と集団のキャパシティ・ビルディングと制度構築という三つの方向性が指摘された。どうも国連総会第 83 会期中（2028 年 9 月）に「将来世代に関する宣言」の実施をレビューする将来世代に関する包括的なハイレベル全体会合があるようで、当面はこれに向かっての作業、交渉などがあるとのこと。

将来世代をどのように定義したのかについての問いについては、準備会合でさまざまな経緯があったものの、宣言前文で、若者とまだ生まれていない将来世代の区別はされているものの、協定 4 章に示された行動は「若者」向けであり、将来世代のニーズをどのように特定し考慮していくかは曖昧なままとのことであった。

・ **フューチャー・デザイン**については、国連の会場にて、一原さんが **Millions Generations** という NGO と一緒に彼らが作成したパネルの前で説明をした旨の報告があった。

質疑応答

辻さん：世代を軸に議論。世代、地域、価値観の違いなど多様な軸あり。具体的なアクションにつなげるには？

田崎さん：input, throughput, output とすると、input のみ。若者を取り込むのが中心。throughput, output はこれから。

一原さん：合意はできても、パスがわからない。4 月には、若者が将来世代に一番近いという議論があったが、宣言では、将来世代とは生まれていない人々。

辻さん：今生きている人を大切にという議論の説明をいただいた。一方で将来のビジョンを構築し、そこからのバックキャストという議論があったのか。

一原さん：FD 的な議論はなかった。

田崎さん：能力と協力をしていこうということが認知された。これからはまだ。

辻さん（早く帰るので FD 分科会向けに）：ネットゼロ社会の検討をし、それを実現するには。周南コンビナートなどで実践中。

西條さん：OECD 系の活動や Cardiff の人々が入っているのでは？ 誰がリードしたのか。

田崎さん：このあたりは不明。オランダとジャマイカが事務局。

一原さん：形のうえでは途上国も入っているものの、何らかのスクリーニングがあった模様。文書を作ったのはカーディフや SOIF の方々かも。

上條さん：Singer の批判は？

一原さん：SDG s の進捗が不十分なのに。

上條さん：若者は相対的に利他性をもっていないのでは？

一原さん：クルズニックさんは、過去世代に注目。戦っている若者もいる。

田崎さん：4章の前文をみると、若者の意見を民主的な観点からいれるという視点あり。

香坂さん：生物多様性と予算。途上国からは？

一原さん：途上国からの突き上げはあったものの、先進国からの反応は鈍い。

宇佐美さん：哲学では若者と将来世代は区別。Longtermism は数百年、数千年。不確実性が高いものものと低いものは区別すべきでは？ たとえば、温暖化はよくわかっているものの、AI の将来への影響はよくわかっていない。気候正義：先進国の責任を意識。南北間の違い。これらを先進国は受け入れない。次のステージは？

田崎さん：若者特使を任命。2028年に新たな条文につなげる。

一原さん：フューチャー・サミットの後にドバイなどさまざまなイベントあり。

浅利さん：Youth の印象は？ 日本人への期待は？

一原さん：日本人の現場参加者はほとんどいなかった。若者で議論があったという印象はあまりない。多くの方が関心をもっていないのでは？

西村さん：総論合意、各論ダメ。FD をやると総論賛成のように見えるものの同床異夢。これするのがFDでは？

一原さん：FD の場合、将来のビジョンは異なるものの、future history で折り合っていることを観察。

田崎さん：フレミングを変えていくことが重要。ただ、今回は宿題になっている。ただ、ファクトをきちんと出すサイエンスも重要。

この後、メンバーの間で情報交換を行った。とりわけ、若者の利己性、世代における利他性などの話が中心となった。

以 上

(当日の Zoom の様子)

